



教育関係者の一人として、大
学入試への英語民間検定試験の
導入延期問題に触れないわけに
はいかない。私のような団塊の
世代は英語の試験といえは「読
む」「書く」の2技能が問われ
た。昨今のように

世の中がグローバル化して
くれば
「聞く」「話す」
技能が重要になる
ことに異存はな
英語
民間
検定
試験
延期
問題
入試

私の母は大正生まれの英語教
師であったが、「話せない英語
は英語ではない」が口癖で、随
分と時代を先取りした教師だっ
たと不肖の息子は思っている。

英語の4技能を問う方向性は
時代の必然であるが、事もあろ
うに文部科学省が民間の検定試
験に丸投げしたところが大問

題。2年ほど前、私が私立中高
連の評議員として全国の会議に
出席した際、文科省から「民間
の検定試験を使用する」との説
明があり、全国の先生方から矢
継ぎ早に疑問の声が出された。

当時東京大は文科省案を採用
しない、と発表していた。大学
入試の頂点に位置する東大が採
用しないなら多数受
験する私立高校生は
戸惑うばかりだがど
うするのか、という
問いに対して、文科
省は「何とか説得す
る」と見通しの立た



草野 義輔

ない回答をするばかりだった。
こんな欠陥だらけの案をどう
して文科省が作成したのか、誠
に不思議。高校現場の不満は大
きい。この案は地方軽視で東京
一極集中の弊害が根底に潜んで
いないかと感じている。

(昭和学園高校理事長・日田
市)